滿洲日報

○報價目
每月收取八角代賣所及遞寄人并無分毫加增

○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登一月者每行每日一角登長年者價當面議從減
每張四百文

……價錢五吊四百文至五吊
集邊共上車三十餘輛
邊共來七十餘輛
元豆六吊九百至六吊八百

一 ……紙
一 フールスカップ 全 一連 四圓
一 中判洋紙 全 二圓
一 半紙 百枚 二十錢
一 巻紙 四十枚續 十四錢

一 ……
一 箪笥 三十圓以上……
一 卓子 五十錢以上三十五圓
一 卓子掛 六圓以上十二圓
一 厨房用戸棚 七圓五十錢以上十圓

一 長火鉢 八圓以上十一圓五十錢
一 箱火鉢 二圓以上三圓五十錢
一 宜德火鉢 一對 六圓以上九圓

Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

……一 長期連揭減價面議
發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社 (電話二十九番)

告示

大日本帝國營口監督與爲
出示曉諭事照得貨財爲商業發達爲之資幣制實貿易繁興之具故必法歸畫一乃可通行更須製造無訛始堪信用熟考當埠幣制雜亂紛繁貴賤低昂莫知所向故有愛英洋錢有好人龍錢有擇大邊錢者他若抹銀錦寶小洋錢等製造不同嗜好各異不可名爲流通貨幣又不適爲公認法貨至於軍用手票大軍所用庶民咸悅今南滿洲到處通行當埠亦交易稱便然自平和克復後逐漸收回代以橫濱正金銀行牛莊支店鈔票關東總督告示確有明文橫濱正金銀行所發鈔票其持至該銀行兌換需用者立將品質九成色之銀圓兌換故自今未盡收回之手票與鈔票銀圓皆爲當市之流通貨幣用此等銀錢充貸買賣存欠各賬目實爲公認法貨其他貨幣除合意交易外不爲公認自示之後仰闔埠人等一體遵照勿違特示
右諭通知
明治三十九年二月

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓
本支店出張所
橫濱 神戸 東京 長崎 大阪
倫敦 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺
電話 十番 支配人室
百八番 事務室
橫濱正金銀行牛莊支店

賣捌並廣告取次所
連大市穩歧町三百三十八號 日華運輸公司
大連市盤城町四十九番地 岡野新聞舖
奉天大南門內景祐宮胡同 全泰號
遼陽 遼陽俱樂部 谷口今朝太郎

三井洋行
倉庫部
啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷者
●精製白砂糖新入荷物あり
今回倉庫所在地(青堆子精搗坐上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候
(電話百二十八番)

宅合名會社分莊
本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印并其名聲已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲綿布火柴絨衣荷標布手巾花巾東洋緞子洋陳罐表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸
運輸部
這般特得官准開設火車轉運行於東西兩店并牛家屯分此殊以李吉甫田彫起等之華人敏活細心以責任欲膺華與本號賜顧幸甚
總司理人田中貂之助謹白 電話 東店五五 西店一八三

東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨兼行并滙兌銀錢兼代客經理買賣和船裝運事宜營口屬東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寛大凡泊輪船裝卸貨物稱爲利便匯貯油餅豆米參與爲合宜像儲有輪船一艘名域多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人 葉亮卿謹白

東永茂
機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房營業及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚週邇知之
正理事潘玉田 副理事金德魁 設在營口西北街路南

西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南營乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號
保裝運各幇火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北營乙第十二號

代代木烟公司
本行專售日本官造紙烟 星象牌(斯邉)櫻花牌(總統)百合花牌(利利)均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌(隆浩來福)清香撲鼻佳美適口而價值極廉諸君欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

永順洋行
本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許般運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議
西北街東櫃(電話九十五番)
西義順棧內西櫃(電話架設中)

三井洋行經理
明治火險公司
本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行而議(電話六十六番)

生徒募集
營口瀛華實學院
今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し爰に督促書を差出したるも尚遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし

營口瀛華實學院招入學生
本學院肄業諸生頗著成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便茲因添設樓宇地勢寬宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白
營口瀛華實學院

淸酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、
上等石炭
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也
松茂洋行商業部
河岸通(電話五十二番)

東營口郵便局東隣
●島田洋服店●

新民屯停車場前
●同 支 店●

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL EGINNEER.
Plans and specifications made to order.
ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

失票聲明
啓者本號於本月十四日接省城來電云有阿什河寶泉長在阿由和順昌匯妥長記名下銹平銀一千零柒拾兩整係昌字二十八號至營交與本號代取此票托友携營不意行至奉天車站偶逢匪人竟設僞局詐去當即寄電之後本匯主業已來營即至同興宏內厲和順昌該二家自昔頗有相契刻間已將此匯款如數使出倘有官商拾得此票者即作癈紙特此聲明
二月廿一日恒增通主人啓

飯塚工程局材料出售
啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧局急之需國本主人啓

聲明假冒
協泰昌與記綠號大有昌洋雜貨號外面並無作保等情近因同字號最多恐有假冒本號圖章特此聲明
本號主人白

營口商業學校招入學生
本學校由客春開學以來肄業諸生頗著成効茲因添建樓宇增設講堂應需器具種々皆備現擬招入第二次學生
宗旨 造成辦公實業家
學科 修身、漢文、詞章、習字、算術、圖畫、地理、歷史、理化、商律、簿記、理財、商品、商業學、日語、英語、體操
學額 五十名
資格 十五歲以上文理明通者
學費 特免惟寄宿生自備饌費餘者本校整辦
入學 陰曆三月初一日
夜班 專爲有志向學而白晝忙於謀生者計每晚兩點鐘之功課授以漢文算術商業學日語以一年爲限
○欲覽各様詳細章程可到本校索閲

和泉洋行
本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、襪子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價値格外從廉克已、凡中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町 藤原謹啓

東洋號運貨局
本局新設新民府今經官准由新民府至奉天輕便鐵路開辦運貨凡鐵路運貨比之車運速而廉衆人所知也本局所辦事宜誠實爲旨懇切受托毫叟不欺且運費格外公道以籌貨主之利便不論貨物多少論担算或論噸算均可倘有遺失壞本局照價賠償若需客票本局亦可飭人代買如蒙仕商賜顧請至本局或奉天支局面議寄貨可也特此週知
新民府輕便鐵路火車站東洋號運貨局本店
奉天輕便鐵路火車站東洋號運貨局支店

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候
三井物產合名會社
牛莊支店
(電話六十六番)

東淸鐵道裕和盛運輸局
(電話八十一號)
在東營口西北街旗昌洋行對門
啓者本號向在日本長崎開設數十年并分店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具烟草代客報關裝船裝車今又承辦東淸鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧
總司理主人 周鶴雲
運輸部主任 高濱麟太郎 謹啓

電氣諸機械
大販賣
本店 天津日本租界電話二〇〇
支店 營口永世街甲二二五號
三友洋行電機部(電一五四番)
主任 朱牟田寅吉

自製煉瓦●瓦·
並に各種石材販賣
營口青堆子
加州組
(電話八十六番)

雜報

●滿洲視察談（中）

（山脇農商務書記官の談）

▲滿洲の商業　滿洲の商業は營口を中心として輸出入をなして鴨綠江流域の安東縣及び大孤山に依るものは極めて僅小の部分たるに過ぎざるが故に今營口を標準として滿洲の商業貿易を見るに年々非常なる發達にして昨年既に四百五十萬兩以上に達したり而して輸出品の主なるものは豆、豆粕、豆油等にて其輸入品の主なるものは綿絲、綿布、マッチ、屑鐵等なり但し此等は多く支那商人の手に於て取扱はれ且つ收利せられつゝあれば現狀を見て悲觀するは宜なりと雖も亦能く考ふる時は全く日本商人のやり方拙劣なるに歸すべきものなり

▲支那人の商略　本邦商人は能く支那人の需用嗜好等を探ぐることなくして直に商品の仕入をなすを以て屢々失敗することのあるも支那商人は一方需用者の嗜好を探知すると同時に他方に於て橫濱神戶在留の支那商人と氣脈を通じ居るを以て商品仕入に巧を極めつゝあり是れ我れの彼れに劣る第一の點なり加之彼等の商業組織は全く本邦の夫れと異りて資本家は一定の資本を掌櫃的と稱する支配人に託し五年每に一度の配當を受け其取引方法の事などは全く支配人に一任せり而して此支配人なる掌櫃的は多數の外櫃を使用して相場の變動より一般經濟事情顧客の嗜好及び商品額等商業上に關係せしあらゆる事を探知せしむるに反し本邦商人には此等の設備を欠けり是れ彼等に一歩を讓る第二の點なり尙第三に支那人は自己の信用を利用すること實に巧妙を極め居れり即ち彼等は錢票と稱する信用手形を發行して僅五六萬圓の資産を有するものにして能く三四十萬圓の資本を融通しつゝあり

▲其一例及通貨　例へば雜穀屋の豆を仕入れんとする時は此錢票を發行して豆を營口に送り出さしめつゝ營口に於ける雜貨商の雜貨を仕入れんとする者より資金を借つて前の錢票を回收すると同時に豆の仕切を雜貨商に渡すや此雜貨商は其仕切を以て直に雜貨を仕入る樣至つて便利なる組織あるが爲め本邦商人の如く高利なる資金を借受けて商品仕入をなすものは到底彼等に對抗する能はざるべし殊に又支那の通貨は各地複雜にして奉天吉林湖南直隷廣東等何れも銀貨を發行し居れりと雖も實價にて通用して一定の法價を有せざるか爲め平常卸に於て一割小賣に於て二割の儲けをなしつゝある支那商人は一度外部よりの競爭者を見る時は商品益を度外視しても尙爲替に於て多少の利益を計算し得るを以て我商人の如き遂に彼等に比敵する能はざる次第なり

▲共同事業　故に現今の商況を見る時は滿洲に於ける吾商業の前途を非觀せざるを得ずと雖も若し彼等支那商人と相共同して滿洲に於ける凡ての事業を計畫する時は以上の如き種々の利益を享有するのみならず能く彼等の資本を利用して双方共多大なる利益を見るべきと殆ど一般觀察者の異存なき所ならんか而して此に最も注意すべきは支那資本家の多數が多大なる資本を抱きつゝ其使用方法に苦しみつゝある事是なり故にし若確實なる企業家のあるあらば彼等は其人を信じ既に資本を投ずるとを惜むにあらざるべきに從來滿洲に於ける我企業家は彼れ支那人と折角共同事業を企てながら一度損益何かの異變を生ずる時は後は野となれ山となれ主義に逃げ去りしを以て彼等の日本商人を信ずること至つて少し左れば今後彼等と共同事業をなさんとするものは先づ一身を其事業に捧げ滿洲に永住の決心をなすにあらざれば彼等の信用を博すること覺束なく又共同事業も成らざるべし從つて滿洲に於ける吾實業の將來も亦甚だ心細きものありと云ふべし

▲新需要の增加　抑も現今に於ける滿洲農民の生活は槪して程度低くして其需用貨物の如き誠に簡單なるものゝみなれど山東省邊より移住せし農民の一般に豐富なることと我農民の比にあらざるが故にもし交通開け貨物の輸入愈々盛になるの曉は彼等も之に接觸すること屢々なるべきと同時に種々新需用を增加すべきや明なり現に交通不便にして馬賊は橫行猛烈を極め居るが爲め冬期には夏期のものを夏時には冬時のものを土中に埋めて自巳生命財産の安全を計る始末なるに於てさへ日露戰爭の結果毛絲の頸卷、手袋、手拭、麥酒、齒磨乃至石鹼等の新需用一時に增加せしにあらずや故に今後警察兵衛交通等完備するに至らば彼等の貨物の効用及び實益を覺り次第に需用を撒增せしむべきや正に明白なる所なれば我商人たるものは現況に失望せずして將來を豫測しつゝ凡ての設計を支那人と共に經營し併せて彼等の目前に貨物の効能及び實益を示し以て其需用と嗜好とを作るに於ては滿洲商業の前途決して悲觀すべきものにあらざるべし

●鐵嶺雜記（二）

朴捨生

然り而して種々の職業人數夥多あるにも係らず苦力數の僅に八十五戶なるに見れは如何に鐵嶺か商業地たるかを測知するに足らん加之道路乞食至つて少なく余は足に任せて市街の大半を廻りしも一人をも見ざりし一點に徵しても明なり尙東北其他の地方より年々集收する大豆の如き多くは七八十万石少なくとも五六十万石より下らすと搗て加へて水陸の利便甚だ宜しきを得實に天然の物資集散地と云ふへし

▲穀類收穫高　管內一ヶ年間の平均收穫高を揭け以て讀者の參考に資せん

大麥一五一四石　小麥七九八七石　糯米三〇五石　陸稻米三七六二石　粟六四二一二石　餅粟一一九一石　唐黍一一二五八一石　稗三七五七〇石　大豆八五〇三四石　アワガラ一六三九八、一六二一　ヒエガラ八二一〇、二五三　小豆三〇〇七石　十六サゝゲ一一七一五　豌豆二〇四九石　大葱六七三〇九九斤　白采六五一八三四四斤　ジヤガタラ芋八九二六八五斤　薩摩芋二〇五六〇斤　黃瓜六六一五九四斤　綠豆六二四石　黑豆一六二六石　南瓜八〇九七五七斤　蘿蔔二七九五〇〇　玉蜀黍三二二石等なりと云ふ

▲重なる商業と資本金　土人中重なる商業別を揭くれは　當行　燒鍋行　占機行　雜貨行　豆油行　銀匠　藥行　山貨　磁鐵　過爐　船花　布疋　綢緞局　木商　果鮮炸煤　估衣等にして合計七十九戶ありと云ふ今是等の資本金を計算すれは百二十五万五千五百二十二圓なりと然れど之れ表面屆出即ち形式的にして實際に至つては此倍額以上の資金を有する者なりと

▲一般の情況　先きに記述したる如く土人間の商業は頗る頻繁にして大半は商業を以て生業とし無賴の輩は至つて少なく故に遠く東北の地に踏込み大豆其他の物品を買出しに出つる者多きは以て一般の情況を察するに足らん就中通江口との取引最も殷盛なり

▲通江口　通江口は昌圖府に達する水陸の要衝にして人馬常に輻輳し商業上最も着眼を缺くへからさる一商業地なり其最近調査の職業別を揭くれは

商人一四四　木商二四　苦力九六四　煙商八　無業四七　銅藝一　餅商一一〇　飯店九　軍人五九　繩作人一一　雜貨商二九　粮米商三三　銀工二　彫刻二　燒餅商二六　馬具商一　菓庄子九　紙商二　煙館五一　書家二〇　皮工二五　機房七　布商一五　裁衣一〇　菜商一七　粉商三　茶館二三　信局三　孤盆頭一一　炮藝一　古着商三二　鐵工一八　菓子商二　油灰八　袋子商七　鐵線三　石工一　靴商一〇　染工五　輸出業七　砂糖商一　饅頭商一一　画工二　車店六　剃頭藝二一　藥醬師二七　靴工四　張布子商一　車頭二　泥工一・鐘表藝一　豆腐商三〇　肉商一九　面藝（麵作人）二〇　船藝（大工二　易者四　籠屋三　寶室一　金商一　西洋料理一　獸師三　醬油一　藝人四　扛房（苦力頭）一　工匠二一

●燕京短信

（三月十四日特別通信員）

▲營口關税拂戻の要求　外務部は前年露軍か營口占領中其税關及釐金局より徵收せる税額の拂戻しを要求せんか爲め前に趙將軍に命し其額を調査せしめ居りしか去る十日將軍の復命に接せり其復命に依れは當年露軍の税關より徵集せし總税額百六十万兩釐金の總收入二十餘万兩あり外務部は此の報告に接するや否や直に唐紹儀を派して露公使館に到り露清會議の一條件として拂戻しを要求せり十日の露清會議は此問題を會議せる者と信せらる

▲黑龍江鐵道敷設許可　[illegible]て黑龍江將軍程德全は黑龍江省より齊欵呼、呼蘭より齊々哈爾を經て愛琿に至たる鐵道を布設せんことを奏請中なりしか清國政府は其計劃を戶部に命し會議せしめし結果遂に批准を與へたり蓋し此鐵道布設權は露清會議に於て露國對淸要求の主要なる條件なること明かなるに鑑らす淸國政府か黑龍江將軍に布設許可を與へたるは飽迄露國の要求を拒絕せん計畫なりと信じらる

▲慶親王の招宴　十三日慶親王は各國公使を招き宴會をなせり

▲西太后の賜謁　二十二日西太后各國公使團夫人を謁見する筈

●過爐銀に就て

●昨紙記載の銀爐條例を最初の原案たる日本人側の制定に成りたる銀爐條例に對照比較すれば不足の個所三條あり

第一、銀爐は其の發行高の四分の一に下らさる現金若くは公債證書を保證金として監督官廳に供托すへし

第二、銀爐に於て預金を取扱ふ時は預金高の四分の一以上の現金を常に準備金として所有する事を要す

第三、監督官廳は何時と雖も其の必要に應し銀爐の帳簿を撿查する事ある可し

其文字に於ては原文今ま觀る能はされは或は相違せる所あるも知る可らずと雖も其文意に於ては寸分の相違無し則ち原案には以上の文意の記入ありたるに新に成立せる昨紙記載の銀爐條例には其の何れの條中に於ても同樣の文意を示す者無し抑も之れ何の爲か。結局、日本人側の讓步に基因するや云ふ迄も非すと雖も日本人側は何故に斯の如き大讓步を爲したるか、蓋し保證金と云ひ、準備金と云ひ監督權の行使と云ひ何れも共に條例中の骨子と認らる者、是等の條項あり條例の價值初て現はる、今此の三條を取除けば條例は殆んど其の要部を失ふたる條例、假令遺憾無き實行を觀ると雖も過爐銀の危險を豫防する上に於て何程の効力ある、想ふに從來の不文條例を文字に併列せし位ゐ迄のみ委員諸氏の勞苦は之を認めさるに非すと雖も、其の結果を見るに於ては聊か失望無き能はす雖然翻て委員の立場に觀れは復た無理も無き所あり委員の一人語つて曰く

保證金と、準備金と、撿查の三ヶ條を讓步せしは固より本意に非す然れとも顧て更に淸人側に觀るも其の讓步は非常の者あり其他の條項は悉く吾々の意見に從ふて條例中に採用記入せり彼等に於て如斯く讓步して吾々の意見を採用するに吾々に於て單に頑として其主張を固持するは情に於て如何にも忍ひさるものあり且つ其他の條項に於て悉く採用せらるゝに於ては帳簿の撿查の如き實際に於ては必すしも其の必要非す尙は準備金も淸人側の主張に依れは銀爐は別に預金の取扱をも爲さすと云ふ果して預金を取扱はされは削除するも可也と削除に同意したる次第也唯だ保證金の削除は吾々に於て最も苦痛を覺へたる者なるか公議會に於て固く決算を保証し萬一怠慢の行爲あるに於ては公議會自ら銀爐に代つて決算を終了す可けれは是非讓步有り度しと切に依賴する儘遂に削除に同意せり云々

更に曰く新に成立せし銀爐條例は以上の次第にて吾々に於ても多大の讓步を餘儀無くせられたれは固より完全を以て觀る能はすと雖も、云はゞ條例は形式の者にて重すへきは其運用の實際に在り實際の運用條例制定の精神に違背する如きあれは其の條文如何に立派なるも何の効力も無きに今回の制定に關しては公議會員も非常に同情し銀爐をして固く遵守せしめ斷して違反せしめさるを公言し銀爐に於ても保證金其他の削除を大に德とし深く遵守を誓約し居らは條文は少々意に充たさるものあるも實際の運用に於ては別に介意するに足らさるを信す且つ夫れ我々に於て大に意を强ふす可きは若し今回の條例を實地に應用し尙ほ過爐銀の不安を覺る時は更に一層嚴重の者と爲すも寸毫の異議を挾まさる可しとの言質を淸人側より奪ひ居る事とす吾々に於て保證金其他の削除を承諾したる理由の一半は復た當に此にあり即ち若し實際に見て尙ほ不安を覺るあれは追加增補唯た夫れ我々の意に從ふのみ

後に軍政を控へ頭に經濟を宿し事に交涉に從ふ是位の條件の保留は固より無からさる可らす唯た夫れ之れあり以て聯か慰むるに足る

●現在の銀爐　昨日記載の銀爐條例は營口現在の銀爐か固く其の遵守を誓約し更に營口公議會か其の遵守を保証せし者なるか以上の條例に依り自今束縛せる所の銀爐は合計二十八軒にて之を列記すれは左の如し

晉太豐記	恒有長記	裕猶源記	永惠興記
天合盛記	東和泰記	義盛德記	正祥記
鴻盛利記	信昌恒記	恒有爲記	昌德記
大盛亨記	恒義利記	興順金記	會通錦記
厚記銀局	鴻盛王記	志鑫合記	同聚興記
慶豐	東生長號	裕盛長	永發祥記
天合源記	義順厚記	天德記	同茂昌記

●遼河愈々解氷す　數日來の暖氣にて遼河の解氷も今明日の中なるべしと豫期せられしに果して昨日より河上處々に龜裂を生じ引續き流氷し初めて氷上の徒涉全く相叶はざるとと爲り二三の艀舟さへ漕ぎ出して流氷の間を往來せるを見たり夜來少しく寒氣の加はれるを覺えたれど一旦流氷し初めたる河水を再び凍合せしむる程の寒さに非ず我內地よりの初航船も昨今夫々航海の途に上りたれば是等船舶の一時に入港して營口の寂寥を破ぶるは愈々此處週旬の間ならんか

●和文電報取扱開始　當牛莊郵便局に於ては一昨十五日より撫順開原昌圖三地への公衆和文電報取扱を開始せり

●郵船北清航船の噸數　本年郵船會社の北清航路に使用する船名及び噸數左の如し

竹島丸	二千六百七十三噸
相模丸（韓國經由）	一千九百三十四噸
營口丸	一千九百六十六噸
山東丸	二千〇三十一噸

●落合參謀長の歸朝　關東總督參謀長落合少將は或要件を帶ひ去る十二日遼陽出發十三日大連出帆歸朝の途に就かれたりといふ

●松井醫學士の來營　醫學士松井甚四郎氏は先日來營し目下軍政署內に在り與倉長官歸營の上は其の執務の方面愈々確定すとなり昨今醫學上に付て種々調査視察中也

●遼陽の衛生組合成立　遼陽在留邦民には今回衛生上の統一を圖らん爲め各戶に一圓五十錢以上三圓以下の會費を醵出し一の衛生組合を組織せる由にて軍政官之を監督し尙淸國との交涉を要するものは淸國衛生局長と商議することと爲れりといふ

●消火器備付の必要　本年は丙午の年なれは必す大火事あるへしと割合に御幣擔ぎの多き東京等にては人心常に胸々として時に想像も及ばぬ騷動を敢てし往々にして外人等も其トバシリを蒙る事あるは內地の新聞を讀む者の一般に知了せる所ならんか近頃聞く所に依れはマサカ丙午の年なるか故にもあるまじけれど旅順邊も近來火災頻々として之れありと云ふ營口の割合に火災の無きは何よりの事乍ら杖は轉はぬ先きに持つ可き者他方の物騷にして營口の安心なる今日に住民は宜く消火器の一臺位備へ付け置いてこそ必須なれと云ふものあり

●孤兒院の一行　岡山孤兒院の一行は黑澤氏の好意により來營以來同氏方に滯在せるが昨十六日は豫ての如くアッセンブリーホールに於て演奏會を催したり當營口にて同院へ寄附者の主なるものは軍政署二百五十圓正金銀行三井洋行各ゝ五十圓等なりといふ

●飛脚旅行（二）

朴捨生

大石橋は各所より來る鐵路の交叉點にして爰にて遼陽行は乘替ねばならぬと傍人の注意で余も下車して驛に至り係員に遼陽行の發車時間を聞けば午前零時五十分と云ふ此田舍に二時間余りも待たねばならぬかと思へば大に閉口垂れたが乘合連中を見れば皆西の方指して行くので自分は奇異の感に打たれ其中の一人に何れへ行かるると問へばうどんやに行くとてりやモツクの幸と自分も其人の尻に附き行けば成程九尺二間のうどんやありて最早人の山をなして這入る事もどうする事も叶はず暫らく門口に門番役を勤め居りしに一向出づる人のなきに屋內を覗けば中には莨をスパ〳〵やらかして居る人やら火鉢を圍ふて居る人計りで本元のうどんを喰ふて居る人は僅に二三人しかないのでグツト癪に障り最早遠慮する必要もなしと思ひ人の間をくゞり拔けて突貫を試みたる所無事に通過せし故兎にも角にもうどん四五杯を命じ退らげの最中に遼陽日本人會の戶水君が營口に行くとてノコ〳〵やつて來たのに出遇ひ種々雜談やら紹介狀を貰ひなとして居る內に發車時間となりて例の暗黑列車に飛込んだ此地より遼陽迄は約四時間計りかゝるとの話に晚ではあるし毛布は一枚ぎしかないので自稱英雄豪傑も少々難義を仕つたが薩广の守忠度は之れ位の事はありがちと辛抱して居る內にヘヤプート一聲遼陽停車場に着した先づ第一に昔馴染の那須憲兵長を訪問せんと軍政署の方向を停車場監視の憲兵に尋ねたる所一向不得要領の答にエー目と足さへあれば何處かへブツカルであらうと漸く尋ね廻して其宿舍に行けば直ぐ樣面會を得て久振りの挨拶をなしたるは骨休みに營口の如き沒趣味の土地に閉ぢ籠らんよりはむしろ蚤となつて天下に飛躍するに如かずと大に氣餤を吐いて荒膽を奪ふてやらんと大風呂敷を擴げかけたる所都會の紳士左もあるべしと大に擔がれたので跡は一句も出ずに苦笑した其內に晝飯を喰へと進られしかも田舍式西洋料理の御馳走に預つた暫くして別れを告げ軍政署諸官衙其他重なる店を訪問したが何れへ行くも例の紀念祝日で留主計りで仕方なく同地を立ちて夕方發車の列車で奉天へ行く事にした

●小氣燄　由來日本の大宰相と爲る者悉く艷福が多い藤伊侯彼の如く桂鶯亦彼の如く而して粹の西園寺侯は官合にもお何の方が居るし到る處の別莊亦お何の方が居る一國の淫風淫然で無い

▲上行車時刻表

車站名	開車時分	到着時分
新民屯至溝邦子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇
山海關至唐山	上一二、一八	下六、二〇

▲下行車時刻表

車站名	開車時分	到着時分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇
北京至天津	上一一、二〇	下五、四一
北京至[illegible]	下二、四〇	下八、三〇

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

大連奉天間　下り列車

驛名	發着時刻	
大連	發午前 九、〇〇	
金州	着 一一、〇九	發 一一、二九

上り列車

驛名	發着時刻	
遼陽	着午後 三、五〇	發 四、五五
大石橋	着 一〇、三三	發 一一、三五
金州	着翌前 二、二〇	發 三、一〇
大連	着 五、三三	

上り列車

旅順	發午後 二、〇三
大連	着 五、三二

營口線　下り列車

大石橋	發午前 一、〇〇

天氣

營口地方天氣豫報　自三月昨日午後六時　至三月本日午後六時

小説

新作小説 **おとし胤**　德田秋聲

（十四）

幾ら身を打悶えたと謂ツて、好い考が出て來るものでも無ければ、面白い分別が出て來るものでも無い。雖然誰にしても、光のやうな破目に押付けられたら、此の位心も迷ふだらうし、此の位脈苦しい思もしなければなるまい。

話は、少時途斷れて、彼等は妾と山の方へ歩いて行ツた。そして何時か、村を離れて小半里ばかり、一方は削り下ろしたやうな崖、一方は瀬の疾い谷河、其の谷河に沿ツた一筋道を歩いてゐたのであツた。

光は、ふと氣が付いて、

「まア、此樣な遠くまで來て了ツて。」

ときよろ〳〵其處らを見廻した。

「然うだね、話に夢中になツて歩いてゐたもんで。」

と健三も呆れた顔。兩人顔を見合はせて、いざとばかり後へ引返さうとすると、山の上の方から何やら、わや〳〵と物々しい人聲物音。

「何んだらう。」

と光は、もう顔色を變えてゐる。

「さ、何んだらうな。えらい騷だ。」

と健三は、耳を澄まして、屹ツと山の上を見上げた。兩人は、謂合はせたやうに足を停めて了ツた。

足を停めると、今しも山の牛腹の唯ある物蔭から、蹄の音高く、突として現はれた一匹の荒馬！ 鬣、さツと朝風に靡かせて、時は春の氣は勇むか。さながらに之、天馬空を翔る勢。飛ぶが如くに、高きより低に向ツて驀然に狂ツて來る。恐らく其處らの牧場に放たれた馬の埒を越えて爰許へ逸げて來たのであらう。此の荒馬の後から、十人餘りの人が、あれよ〳〵と叫びながら喚きながら、一散走に駈けて來た。幾ら駈けたと謂ツて、此の荒馬の駿足に及ぶことで無い。

「危ないだ、危ないだ。」

山の上から、危急を警める聲は、早鐘のやうに兩人の耳に響いた。

「何うしやう、私、何うしやう。」

と光は、顔を眞ツ蒼にして、おろ〳〵しながら、泣き出しさうになツてゐる。

此樣な危急の場合にも、健三は落着き拂ツてゐる。何處まで剛膽なのか、何んとも謂はずに、たゞ鋭い眼を四方に配ツて、殆ど眼前へ荒馬の飛んで來るのを知らぬかと思はれるばかり。たゞ草刈籠だけを肩から外して、大地に置いた。そして光を自分の後に庇護ひながら、荒馬の方を見ては、急はしく眼を働かしてゐるばかりであツた。

「そらい、そらい―― 退かねいか、退かねえか。荒馬だぞ、危ねいぞ。」

また一とかたまりの大きな聲で、兩人の耳に喚き込むだ。

「健三、ね、何うしやう。お前、何處へか逃げなけや………」

と光は、また夢中になツて叫んだ。

それでも健三は何んとも謂はぬ。固より逃げると謂ツても逃げるだけの猶豫が無い。退くと謂ツても、退くやうな場所も無い。左は急瀬岩を嚙む谷川。右は、斷崖絶壁、進退維谷まるとは、正に此のこと。

其の間に、荒馬は次第に近づいて來た。もう絶躰絶命だ。光は、生きたる心地も無い。逃出さうにも逃出す元氣が無い。危險は恐ろしく迫ツて來て、もう一分間と經たぬうちに、兩人は、荒馬の蹄にかゝツて、谷川へ蹴落されるか、肋骨をぶツ挫かれるか。

「爲方が無い！」

と健三は、たゞ一言。呟くやうに謂ツた。まるで大將軍が、味方の敗報に接した時のやうな語調である。

「もう爲方が無いの、え、健三、何うにかして逃げられないの。」

「駄目だ。」

「駄目だ？………」

と光は、氣が遠くなツたやうになツて、突如大地に突ツ俯して了ツた。

その哀な姿を見て、健三は、しツかりした聲で、

「孃さん、然うしてゐるだ。動いちや可けない、決して動いちや可けないよ。動くと死んで了ひますよ。」

と謂ひながら、荒馬の方を睨むだ眼。その眼は燃えるやうに輝いてゐた。

「可いかね、動いちや可けない………しツかりしてゐるだ………大丈夫だから………大丈夫健三が護ツてゐるから………」

と謂盡ぬうちに、健三はひらりと身を翻して、恐ろしい勢で、荒馬に向ツて突進した。そして馬と相距ること七八間のところで、大手を擴げて、

「はーい、はーい。」

と呼はりながら、三四度躍り起ツた。

荒馬は、此の勢に驚いたのか、づる〳〵と滑りながら、バタリ立停ツて、クルリ體を回した。そして二度三度高く嘶いた。

投書かご

▲引倒生に謝す今日早速改良し自慢の料理を差上げますから諸士御誘引御光來を待ち奉る（牛莊亭帳場）▲營口の料理は遼河の解氷と共に甘く爲らねばならぬ併しそれもおの上のやり口一つによるのである對料理店策の如何によるのである（旅順雲助）▲溢茶一杯に十圓の茶代を取られてギヤフンとした外國人は今度又孤兒院が押し掛けて來たので目玉をグル〳〵して居たよ（實見生）▲貴社の投書かごは近頃桂庵もお始めですか併し一向に繁昌しないやうだチツト女の子を周旋し給へ商賣繁昌請合だ（老婆心生）▲軍票は騰貴したが其割合に品物が安くならないので大抵は皆買控の有樣である其證據にや堂々と大きな店を構へて居る大商店の客足が寂々寥々では無いか戰爭時代の甘い味を夢みて人の金を只取りするやうの氣では遂にチヤンコロにやられて了ふぞ（忠告生）

●聞見錄　先日歸朝した代議士の降旗元太郎君は四月中には是非再擧するか其時には公法學者や、私法學者や、辨護士や總ゆる法律學者を知人の間から探し出して連れて來ると云ふて居つた此位の準備は無ふてはなるまい先生滿洲でセシルローズを以て任ずる積りだそうだから▲森病院の鈴木醫師は支那人の餘り風呂に入らないのを觀て成程支那人は利巧だ此の寒國で度々湯に入り脂肪を落したら大變だ彼等か時に蒲團も着ず丸寢で寒ひ所に寢轉ひて別に風も引かぬのは湯に入らない賜だ換言すれば不潔のお蔭だ不潔も時に必要である哩と言つて居つた日本の湯屋は一矢酬る所なくては叶ふまい（聞見子）

遠征雜詩　犀陽

一基墳

秋風颯々遠鐘聞　數點飛鴉入暮雲
異域死生誰測繪　勇兵空設一基墳

海外風波

海外風波處々難　家郷萬里夢魂安
長歌一曲空天地　月夕花朝自苦酸

視死如歸

視死如歸自出群　生平意氣九天雲
幽明既隔何能語　夜半空烟一縷薫

先驅一馬

士卒粉々萬隊中　先驅一馬過山東
敵兵隔水深溝壘　一派笳聲陣々風

腥風襲夢

四野荒烟日色殘　平沙萬里陣雲寒
腥風襲夢眠難得　獨對孤燈暗涙酸

凱歌高唱

世人深願五洲和　戰艦旋歸萬里波
最是王師先得勝　凱歌高唱白雲過

春月　黄雨

よしの山霞の衣うちはへて花も朧の春の夜の月

霞

海原は波さへたゝず長閑にもかすみこめたる沖の島山

雪中梅

雪のうちにさきかけ訪へと咲きぬらし梅の初花ニツ三ツ四ツ

●前妻と再婚す　近頃紐育に於て或る富有の投機師なる老翁一夜晩餐會に於て六十歳の婦人と會せしに一見互に意氣投合して禁し難き情念起り幸ひ獨身なれは妻になり與れずやと申込みしに老婦人も直に之を諾したりしが法律に循ひ結婚契約を締結するに當り三十四五年前故ありて離婚し後他に嫁して寡婦と爲れる前妻なりき此事情法律上再婚の妨碍とならざりしを以て舊夫婦は遂に偕老同穴を契りたりと云ふ

廣告

公告

電話交換加入者募集

當局電話交換加入希望の者は至急申込可し

追而二月十五日以前に申込みあるも未た架設に至らざるものは重て申込を要す

明治三十九年三月三日

營口軍政署電話局

旅館 **富喜樓**

室内は極清潔防寒之設備あり
鐵嶺驛へ滊車到着毎に日本人の案内者出張致し居候

鐵嶺城東門外南へ一丁余
南大街　樓主敬白

一關内外蘆漢鉄道貨物運輸　但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ヘ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續　事務取扱　但弊店事務所及郵船會社代理店内派出員ニテ
一鈔關手續　但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶貨物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間陸續御用命付被下度願上候

營口西北街第二七二號
大清通運公司
營口支店

夜警決算報告

一銀二百六十三圓五十錢　二月分徴收高

内譯

一銀百五十圓　公議會ヱ苦力費支拂
一仝三十圓　新聞廣告料
一仝二十一圓二十錢　領收書用紙、臨時雇員給料、帳簿料、

差引殘金六十二圓三十錢

右及報告候也

第一派遣所
夜警委員

御旅館 豐陽館　上海（電話一〇六番）

日本郵船會社荷客取扱
歐米滊船乘船取扱

館主 米田藤吉

弊店儀從來平野町に於て左の營業致し居候處此度商業擴張の爲左の所へ移轉仕候間倍舊御引立の程奉願上候

豐濟門街李俊の前
ペンキ塗請負京阪組

故沖禎介

追悼の爲め江湖諸賢より玉はりたる詩歌書畫を編集上梓して一の紀念帖と爲し度き旨同存父沖莊藏氏より通知有之候就ては其紙數を一葉にても多からしめ以て存亡父子共の光榮を大ならしめ度くと存候間廣く江湖の同情を得度廣告候也

一、紙判は美濃紙大
一、刻版は四月中に取かゝる事と存候
一、沖莊藏在沖繩縣那覇地方裁判所官舍
一、御問合の件あらば左に

新民府奈良崎八郎　營口瀛華學院上野政則
大清通運公司安田貞藏

同志友人　敬白

鐵嶺 西門外大通
御旅館 御料理 **福屋**

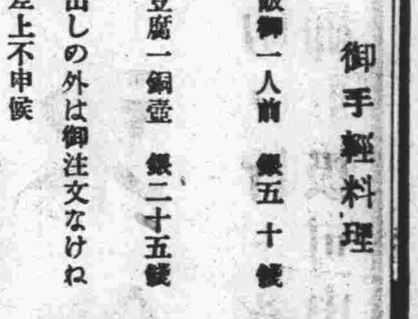
北京 東單牌樓大街路西
扶桑旅館
客室清潔料理鮮新

御手軽料理

一釜飯御一人前　銀五十錢
一湯豆腐一鍋壹　銀二十五錢
一突出しの外は御注文なければ差上不申候

月　日

營口元神廟街二〇九號
翁亭



營口
本店 **彌生**　電話四一番
支店 **彌生**　鐵嶺西門外大街

今回新に鐵嶺支店を設け旅館及會席御料理營業仕候間本店同樣御引立之程奉願上候

一位置　西門より西の方五六軒北側に候
一構造　室内裝飾等日本式 特別室あり凡て營口本店の設備に比し優るとも劣るとなし
一待遇　は親切と叮嚀を旨とし調理萬端十分注意仕候

館主宮下只七郎

奉天日本旅館 **瀋陽館**

家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開放全時一閑業
奉天小西門外ナ街路北

會席料理 **三日月**　營口警務課前南に入る

御旅館　天津
芙蓉館
駐屯軍御用
並西洋料理

材木 荒物 販賣

秋田洋行

營口永世街第一八四號（中野町）

本店 下關 秋田寅之輔商店

上海 中井洋行

專運日本各式紙料

本行開設已歷多年曾與日本製造名廠訂有專銷之約凡新聞紙料印書籍各式紙料莊票包棉紗料草板紙張日本機器連史紙由本五彩印字渾墨其他各件紙料一切統由本行出售 貴客惠顧請至江西路五十一號門牌可也

中井洋行

雜貨 醬油 木炭 すし米 清酒 大樽 半樽

營口西北街

阪神組

CARTRIDGES.

We have just received a large assortment of Sporting Cartridges for 8, 10 & 12 bore Guns which we are prepared to supply at moderate prices, cash with order.

Apply to,
BUSH BROS.

獵銃彈新荷着

第八、第十、第十二號獵銃彈新荷到着廉價にて販賣致候間多少に拘はらず御注文被下度候

但貸賣一切御斷申候

ブッシ商會

Yano & Co.

矢野洋行

Telephone No. 137 電話一三七

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段ハ極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

本家 日本東京神田鍛冶町 堀內大藥房

あさだあめ 淺田飴

肺病痰喘氣急傷風風邪小兒風邪病後體弱肺病一切立見奇功

◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかぜ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥

有名賣藥醫藥醫科器械卸小賣

永世街 東瀛大藥房

房主 藥劑師中馬龍造

石材、碎石 並に自家製造 瓦、煉瓦 廉價販賣

營口元神廟街四十號第二號

順吉洋行

醇良自釀清酒

札幌ビール 朝日ビール 口付莨大和 酢 醬油 瓶詰樽詰 菓子 罐詰 色々 洋酒類 右取次販賣

牛莊港東營口 宅合名會社 營口支店

財茉者芳香馥郁而美味可愛靈約也

ゼム 財茉口中香藥

ゼムハ著大ナル効能ト愛スベキ美味馥郁タル香氣ヲ有スル良劑

大日本東京 山崎愛國堂 大藥房處修

大淸國發賣處 淺野大藥房

營口永世街（二本町） 各國有名賣藥總發賣處

大日本政府特定 官製口付紙捲煙草 滿洲一手輸入發賣

江副洋行

營口永世街

歐米各國最新流行形

西海洋服店

永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

高等勉強乘車乘船好位置 營口中央市場前

旅館 東京樓

店主 熊田兼次郎（電話百七十八番）

即席和洋料理 東京樓支店（電話四十四番）

西洋料理仕出し御需に應ず

船舶輸出入 荷物取扱 荷物保管 稅關手續

市場北三階樓 時計店ノ二階

宮原公司

SPECIAL LIGHT

(PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり

スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり

スペシャルライト、は其味輕くして高尚なり

釀造元 大阪朝日麥酒株式會社

營口發賣 關東公司雜貨部

工

飯塚工程局材料部

營口元神廟前（電話百三十五番）

弊局土木建築材料品の各産地と特約を結ひ廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候

一北海道産松大角材外種々

一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等

一日本石炭數種

官製口付莨、文房具 和洋酒類 罐詰、菓子 藥品、雜貨 醬油瓶樽詰 防寒具、安價販賣

白米 卸商

㊉ 豐生洋行

營口西北街（電話十三番）

軍隊用雜貨 日用品雜貨 呉服太物類 化粧品類 陶器類 食料品類 卸小賣

其外新荷着精々安價販賣

石原商店

營口永世街七十號（第二市場東）

大連市信濃町卅九號地

旅人宿 東館

特別ト親切ヲ旨トシ且ツ廉價ニ御取扱可申候

時刻

唐山至天津 上六、二 下一、二八
塘沽至北京 上一、二八 下
天津至北京 上六、〇〇 下二、〇六
山海關至北京 上八、〇〇 下六、四五

天津至山海關 上六、二五 下一、二一
唐山至山海關 上六、〇五 下一、五八
山海關至營口 上七、〇〇 下四、五五
溝邦子至新民 上三、〇〇 下六、五七

陽 天 上り列車 發 七、二〇
若午後 二、〇六
天線午前 一、〇〇

驛名 大連 發午前 七、三〇
順 着 一〇、四九

營口 上り列車 發午後 十、二五
大石橋 着翌前 一〇、二〇

宮門抄

十九日

內務府　廂藍旗值日無引見　李家駒王清穆到京請安

內務府奏派致祭　黃木神

派出文煦　掌儀司奏二十六日祭

奉先殿恭王行禮

召見軍機　李家駒　王清穆

張瑞蔭遞封奏一件

論說

論中國不宜過分省界（續）

一交通之省界太嚴也。處今日商工業最發達最昌明之時代。鐵路蓋無國不有也。論路之延長。則推美國。論路之周密。則推英國。論輪車之精美。則推比利時。其餘各國。亦莫不精心仂造。實力奉行。蓋路通而後散者可聚。費者可省。遐者可邇。滯者可通。交通之利盖大矣哉。中國往時拘守成見。或謂風水攸關。或謂攘奪舟車之利。以至無端延擱。事事皆居人後。迨風氣漸開。而路權又爲人所獲。歷觀通國已成未成之鐵路權。揚子江流域。則　人所經營也。黃河流域。則法意比所經營也。山東則德人所經營。山西則法人所經營。南部如川廣雲貴。則英法互相經營者。關以外之東西邊界。又俄人所經營。今又以南滿洲之路權。讓與日本者也。搏搏大地。怭々衆生。嘆公法兮無存。痛強權之日迫。近年我國民始發奮爲雄。起而抗爭其利益。收回其主權。自去年粵漢鐵路贖回自辦以來。各省相繼而起者。不一而足。國民思想之膨脹。程度之增高。即列強亦瞥心注目。而不復如從前之狎以視之。玩而忽之也。而特是集股自辦。凡他省人決不許攙入股分。就形式上論之。團体似甚堅結。就事實上論之。規摸實太狹隘耳。夫各省人自辦各省鐵路。計誠得矣。設本省人財力不足。則莫大利源。不幾听其終止乎。此省界之宜化者二也。

一幣制之省界太嚴也。蔡氏廣治平略曰。錢者泉也。如水之行地。不可一日止　此非獨上下之相通。而亦盈虧之相乘。若止而不流。當名之爲池。不得謂之爲泉矣。古者伏羲氏聚天下之銅。仰觀俯察。以爲棘幣。外圓內方、法天象地。是爲錢幣之始。自伏羲後四千餘年。制度屢更。卅代數易。而其法固未嘗一日廢也。近自各國通商。制錢之外。兼用洋元。一曰本洋、即大呂宋所鑄之洋。一曰鷹洋。即　西哥所鑄之洋。由是而外貨之輸入者漸多。而內地各省。亦皆仿鑄洋元。以求抵制。法至良。意至美也。乃外貨之輸入中國者。則行之國都而利。行之各省而利。行之關內而利。行之關外而利。而自鑄銀元。則川廣幾不能行之雲貴、江浙幾不能行之湖廣。推之他省。無不皆然。其最大之區別。則任携南洋何錢。不能用之北洋也。任携北洋何錢。不能用之南洋也。攷錢之爲物。出於山而不窮。行於世而不竭。非若菽粟布帛。爲市不可以越鄉。乃何以自古行其法而民富。至今行其法而民轉貧。外國行其法而民利。中國行其法而民受害。無他。省界太嚴。奸商囊買。遂得多方抑勒。百計扣折。致平民受無限之累。而僅恃外洋之輸入者。以爲通行之貨幣而已。本國利權。顧將安在哉。此省界之宜化者三也。

他若滿漢之界。尤二百六十年來固結而不可解之錮習也。乃我　皇上明降　諭旨。滿漢准其聯姻。而新設之外商各部。滿漢員缺。初無所分。蓋亦一視同仁之意也。苟省界之說。果亦力除其根株。泯其意見。吾見四萬萬同胞。戮力同心。群策群力。求利於國。求利於民。而國猶不富。民猶不強者。未之有也（已完）

倫敦電報

●**德國聲言撤駐**　據德國政府聲言云於西四月杪一律撤退屯駐中國之德兵回國惟留七百名以守備北京天津等處云

●**出洋大臣到美情形**　出洋大臣澤公等刻已抵美總統盧斯福氏國務卿魯多兩人各招請一次頗極優待魯君告澤公云近時中美兩國互生異議者坐彼我不詳悉兩國寔情耳云云

（以上西三月十四日發電）

中外要聞

●**肅邸起程消息**　聞理藩院人云肅邸於二月底請訓三月中旬起程出張家口至庫倫赴伊犁烏什喀爾科布多等處再由內蒙查辦兵鑛云

●**商部條陳**　商部日前遞一封奏係爲條陳考查地理以期推廣商業擴興農務並有參酌各國商約辦法及籌議東三省開放事宜所奏　兩宮深爲嘉悅聞此摺係因主事胡宗瀛田步蟾考查東省商務回京之條奏也

●**山海關防務緊要**　政務大臣會議山海關乃五方雜處之地若待東省開埠人類龐雜事務谷繁巡防尤關緊要應即電知該副都統認眞整頓營務添練新軍並飭直督選派常備軍一鎮前往駐紮要隘兼資教練各軍俟練有成効再將常備軍調回總期免滋紛擾裨補地方云云

●**庫倫鐵路近聞**　聞官場消息庫倫鐵路須俟中俄定約之後再行修築又聞袁督執意必修倘有阻滯則派常備軍前往鎮壓

●**閩粵鐵路劃分三段**　閩省日前有電致商部云閩粵鐵路前蒙大部核准開辦茲已將該處路綫詳細查勘亟宜分段興修以期循序茲擬先由厦門起至漳州爲第一段由漳州至廣東之潮州爲第二段復由汕頭直達香港爲第三段按段興工以便速成應請查核立案云云

●**劇資興學**、都下鞠部代表因浙杭惠興女士之問題大動感情稟請官府定於三月初五初八十二計三日內在湖廣會館演戲所戲收價悉數匯寄杭州貞文女學校以資經費並於月之二十日在同興堂筵請助善諸公便向熱心學界一至於此庶可爲士大夫之嚮導乎

●**鄂省商場分段趕修**　省城外設立商場近已分爲十三段開闢馬頭起造官房以期振興市面由人憲委張虎臣總戎爲專辦馮少竹司馬爲提調周嵩甫太守爲核估刻期興修其一切需用款項在官錢局先行撥給俟落成後再訂章程招商收費用至外間傳爲自開通商口岸之說尚未有確實消息也

●**江令並非自刎**　南昌電云現有英美兩國醫生會同詳驗江大令死屍以爲並非自刎致死（按江大令若非自刎致死則天主教士王國安戕傷江令之說必係確實則天主教士激生禍端之咎係屬萬難推移當軸諸公宜據理交涉勿貽訕笑于中外中國幸甚大局幸甚）

●**嚴防洩漏**　政府現以內廷秘密事件並未宣布而外間早得消息聞內閣有某大臣面論滿漢票簽並供事人等於繕抄摺稿底件派承發監管以杜洩漏而昭愼重

●**西藏呈遞佛匣**　聞西藏駐藏辦事大臣日前呈遞報匣一箇佛匣一個滾單咨文各一件內稱班禪額爾德尼於佛道之期敬詣達賴喇嘛傳授格隆大戒虔誦諷經卷遠荷聖慈感戴天恩莫罄微忱謹呈古銅佛一尊用黃綾匣裝盛代爲呈進

●**條陳兵米**　聞有某御史呈遞條陳徵收糧米支給兵食因名爲兵米向來州縣官折收銀兩每一倉石照時價多收六七錢至加倍不等收銀後另買稻穀碾米給兵其買穀或派富戶或派米舖每石又照時價短發一錢甚至某富戶希圖結交因事情託並不領價者似此一出一入多收少發何堪賠累奏請免其輸將量議加增以便民所樂從等語

●**力禁浮收**　聞浙江杭嘉湖三府有舖倉駁運等費每正糧一石收漕費錢八十文至九十文不等白糧每石收取置備米袋十五文湖北每一石收耗米七升漕費銀七分湖南每一石收耗米六升收費銀自七分至一錢二四分不等以備公之用此項者擬議裁革非但運軍無以濟運勢必更起勒索之端即州縣修倉舖墊無項可動亦必藉辦公名色賠派浮收轉滋弊生因令因時調劑無濫無苛論令照舊遵循辦理又東西各陵官兵人役及綠旗兵丁一年所需粟米三萬六百餘石將山東漕糧粟米照數截留以原船自天津運至新河口自新河撥天津船運至五里橋給償銀一兩三錢二分於過插入倉脚價銀內撥給

雜報

●**兒戲成巨禍**　昨聞東街居民張姓者家人皆因事外出留二孩守室其對門者亦僅有房三椽院宇逼窄各於窗外積薪壹垜夾徑僅可容人亭午時對屋婦亦外出二孩提孤寂乃引比鄰子女四名聚玩一室皆五六七齡無逾十齡者詎一九齡子盤托黃紙手挈火柴出向簷前效作祭掃俾衆子女圍坐以哭而火侵薪垜引燃衆孩駭莫能救急入內扃門群潛炕上悄無敢作聲者幸一乞丐瞥見疾向門外賣漿者以告比鄰俱來則煙焰濆沸羣將賣漿桶水灌救已將垜薪燃二十餘捆因薪質滋焚一巨穴云

●**馬賊掩掠**　昨聞北城商客來埠云奉化縣四平街統約商舖三十餘家間有旅店前數日薄暮投宿該店貨車十數輛入店日暮突來馬賊七名兇持槍刀商客等畏死皆听賊所欲統約搶有東錢一百七十餘萬緡賊慾滿足已將行矣復來二車上坐一客携賫銀五錠光帖六千元急將羌帖暗置僻處掩之其銀五錠盡被賊等搶去云云

●**角力跌折左股**　埠有萬祥鏢局有甲乙二少年角力消食甲用力太猛乙不防碰然一聲竟將脛骨跌折立刻不能起立急爲延醫療接未知若何

●**河氷驟泮**　昨夕薄暮時河北軌車搭坐諸客下車爭相過河時聞河底洶洶潮湧憲兵乃督巡勇等於西海關北岸禁止行人過河奈該等苦向兵勇懇求無可奈何僅容爬車每載一人即若附蟻爭向南渉時已昏暮輙聞河中陷下車人數四附後者急爲旋回前陷者昏沉莫辨卒未知得援上否於是憲兵等決不容該等渉河今晨河氷已泮至西海關碼頭云

NEWCHWANG, SATURDAY, MARCH 17, 1906.

The Russo-Chinese Conference, (Part IX.)

We lay the most emphatic stress on the deplorable fact that the greater majority of the more enlightened elements of China, who ought to lead their benighted brethren out of the deep darkness into the light of civilization, converting them into loyal, intelligent subjects, sadly lack the fire of true patriotism in themselves and are too pliant to foreign seductive influence vertically contrary to their contry's welfare.

There must be some fatal flaw in the composition of the average Chinese to make him a good patriot. And it can be traced only to the abnormal development of individuality at the expense of nationality, producing more or less the denationalization of the heart——the very same national malady that, allowed to assume an aggravated form, has killed Korea. The application of an efficacious cure for eradicating this mortal disease yet in its incipient stage, that is, (V) *the animation of the Chinese with the true, loyal love of their country, through the fulfilment by the Government towards the people of duties and obligations of the parents to the children*, must form the central axis, round which the introduction of the other four regenerative plans——(I) the construction of railways, (II) the education of the masses, (III) the development of the national resources, and (IV) the reorganization of army and navy——must revolve, never to deviate too far away from it.

It takes of course time, years of hard labour, not to speak of the level head and the iron arm to effect the remedy, which, having been apparently altogether neglected too long, should be initiated this day, or *at least, anything more calculated to aggravate the malady must be strenuously avoided.*

It is highly praiseworthy that the Government has decided against granting concessions to foreigners either in building railways or working mines, and it is to be earnestly hoped that the decision will be strictly adhered to.

However, cognizant as China is of the crying need of instituting at once all those grand schemes, inclusive of the organization of army and navy and the educational system, she fails to find the two essential requisites—the funds and talents— at home to an adequate extent. Most of both must be imported from abroad. This being granted, the critical question arises, "To what foreign countries, should China look for the necessary supply?"

Only such as have been guided by the stable foreign policy of broad justice and humanity, and nurture the least ambition of self-aggrandizement, so making themselves thoroughly trustworthy, at the same time, possessing sufficient strength fitted for the support of China in time of sore need as she is just at present, must be selected. Great Britain, the United States, and also Japan, if the immodesty of self-recommendation by a Japanese may be lost in the honesty of conviction, will fill the requirement.

The Three Powers being the avowed champions for the integrity of Chinese territory—although, as matters stand topsy-turvy now China cannot presume too far on its guarantee by the Anglo Japanese Alliance that by no means binds either party to assume responsibility for every folly China's shifting whims may indulge in to the working of her own ruin——the interlacing of the Empire, beginning with the hemming of its frontiers, with veins of surplus British and American capital, or the presence in highways and byways of her government service, of any numbers of British, American, and Japanese professional experts engaged on the good recommendation of their respective governments, is safely calculated more to exercise a wholesome remedial influence than produce any aggravating effect upon the mortal malady deep-seated in the susceptible hearts of the Chinese among whom they may move. Moreover, this blending of the interests of the three countries with those of China cannot fail to strengthen their common guarantee of territorial integrity enough to effectively repel all possible attempts at transgression.

Mar. 16, 1906.

LONDON	Bank T.T.	1/11 15/16
	" De'd	2/-
	Cr. 4 m/s.	2/-5/8
AMERICA	Bank T.T.	48½
	" Dem'd	48¾
	Cr. 4 m/s.	50¼
Bar silver		29⅓
JAPAN	Bank T.T.	98¼
	" Dem'd	98½
	P'ate 15 d/s.	99¼
SHANGHAI	Bank T.T.	71
	" Dem'd	71¼
	P'ate 15 d/s.	72¼
TIENTSIN	Bank T.T.	102¼
	" Dem'd	102
	P'ate 10d/s.	101

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館 第二營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程

料理 千鳥 元神廟街百三十三號 店主 吉住善藏

料理 沖の島 永世街百六十五號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館料理 高砂ホテル 高砂亭 西北街 店主 片山小みつ（電話一四五番）

旅館 竹村館 永世街二十二號（電話五一）店主 麻田久二

旅館 大和館 永世街三十四號 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

旅館料理 金城ホテル 永世街百六十六號 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

京東 生蕎麥 一式 東庵 元神廟（電話百五十九）

料理旅館 醉花園 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

料理 喜樂亭 營口元神廟街

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街

さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

御料理 柳亭 叮嚀專一 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理 一力 營口永世街 店主 堀万助

並ニ溫泉 毎日新湯

和洋料理 本店 松月亭 營口元神廟街一四三号

和洋料理御旅館 支店 滿洲ホテル 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業 營口ホテル支店 主任 井上源吉

御料理會席 菊水館 主任 朝枝圓措

旅館西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉

旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 色々應御注文 凱旋亭 主任 古谷庄太郎

旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席 玉家

御料理 主任 西野治三郎

御料理會席 來々亭 主任 石田清

奉天旅館料理屋案内

旅館 奉天館 奉天城内鐘樓南大街 奉天軍政署指定旅館

和洋御料理 日滿倶樂部 奉天大南門裡大街

商人御定宿 瑞豊館 奉天小西關大街北側 館主 河野嘉吉（電話　號）

旅館 天神館 奉天小西關大街北側 館主 荒川一松

旅館料理店 日の出樓 奉天小西門通（元紅葉館跡）（電話七號）

旅館料理店 日盛館 奉天小西關大街南側 館主 入江□男（電話　號）

料理店 梅松館 奉天城内灰市街東華門宮殿東側 館主 押尾富次郎

旅館料理店 大和館 奉天大西關高臺子廟前 館主 今井コノ

撫順炭大販賣 多少に不拘御用命被仰付度願上候 金城館販賣部

特別室落成 營口金城ホテル旅館部

藝妓仲居 新來 金城館料理部

奉天小西門外 會席御料理 高等御旅館 金城館

料理 滿月 滿月支店 店主

和洋御料理 會席

一 弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候

二 奉天支店も本店同様に大勉强仕候間御光來被成下度候

營口永世街二本町 日本館本店（電話百三十番）

奉天小西門外大十字街北入橋町 日本館支店（電話十九番）

各位様

森病院

一 診察 自午前八時至正午十二時 自午後三時至午後五時

一 往診 午後三時より

△患者の入院治療を諾す

△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄

姙婦の入院を諾す（取扱主任産婆太堀しげ子）

院主 森篤 醫長 鈴木昌平 營口永世街（電話一五五番）

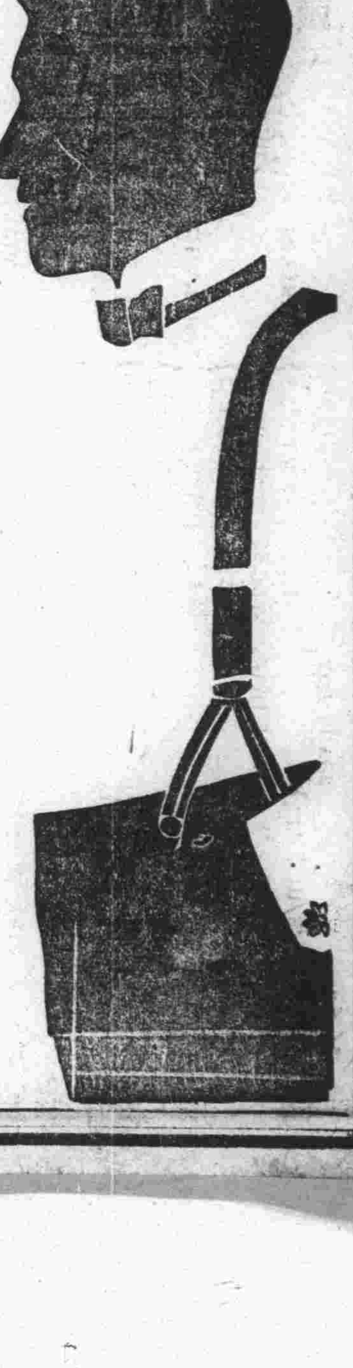
諸鐵工製作

鑛山船舶機械鐵工 輕便鐵道附屬鐵工 土木建築用鐵材料 其外鑄物諸般

喜川鐵工場

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ふも尚ほ不拂の御方は其姓名を掲げ新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相成度右は同業者協議の上及廣告候也

營口旅館料理屋同業組合



新着！ 舶來ヅボンツリ、新形ネクタイ、流行リボン、

雛人形 東京市松、はこせこ、鏡入、貰入、蒔絵貰入、手文庫、金庫、支那鞄、柳行李、

元祿模様、絹首巻、ハンカチーフ、花簪、鶴香水、ばら白粉、櫛、刷毛、理髪道具類、春模様新柄友染、双子縞、銘仙、裏地品々、

營口 加藤洋行（電話八十番）

發賣 料木 標子 木板 塩川商會

清國營口二本町二五五號 主任 鹽川峯吉（電話一三六番）

遼陽小西門内 鹽川商會

●建築用材北海道產松大角（自廿五尺至三十尺）二万立方尺餘 外に電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本 右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓

○上等日本米 一石に付 銀二十圓

○板材木 ○木炭 ○亞鉛板 ○洋釘 ○干鰮魚 ○石灰

喜久洋行

御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也

永世街八十號（電話百五十二番）

大連 東洋ホテル 大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

發賣 標子 木板 料木

營口青堆子 清水寧木局（電話九十六番）

爲替相場（三月十六日）

日本向 九十八圓五十錢（軍票百圓に付）

上海向 七十一兩二十五錢（同）

天津向 一百〇二圓（百弗に付）

芝罘向 天津向ト仝

油豆市場（中暦二月初九日）

日本品最近物價表 紙類 加藤洋行

一半紙 一〆 二圓九十錢より三圓廿錢

一美濃紙 仝 七圓五十錢

一仙花紙 一帖（六十枚）六十錢

一塵紙 一〆 一圓七十錢

一仝 二十枚綴 三錢二厘以上四錢

一状袋 百枚 十三錢以上十八錢

室内装飾品及寢具 矢野洋行

一蒲團 三枚組 六圓九十錢以上六十五圓

一座ブトン 十帖 六圓五十錢以上三十五圓

一暖爐 五圓五十錢以上十四圓

一仝 附屬道具 一圓五十錢以上

一疊 二圓六十錢以上三圓

一薄縁 十枚 八圓

一麻緞通 一疊敷 三圓

一綿緞通 仝 三圓五十錢

一由加多織 仝 一圓七十錢

一白毛布 二枚綴 八圓以上十五圓

MANCHURIA DAILY REPORT.

Subscription 4 cts. a copy 80 cts. per month. $2.30 per 3 months. $4.80 per 6 months.

本紙定價 一枚ニ付 銀四仙 一ヶ月前金 銀八十仙 一ヶ年前金 四弗八十仙 半ヶ年前金 九弗六十仙

廣告 二十一字詰一行一回 銀二十仙 半ヶ月以上